



# 2002年9月中間期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2002年11月13日

お問合せ先:

広報IR室 マネジャー

柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



# 02 / 9 は加工食品が増益の原動力

## 2002年9月中間期の連結業績

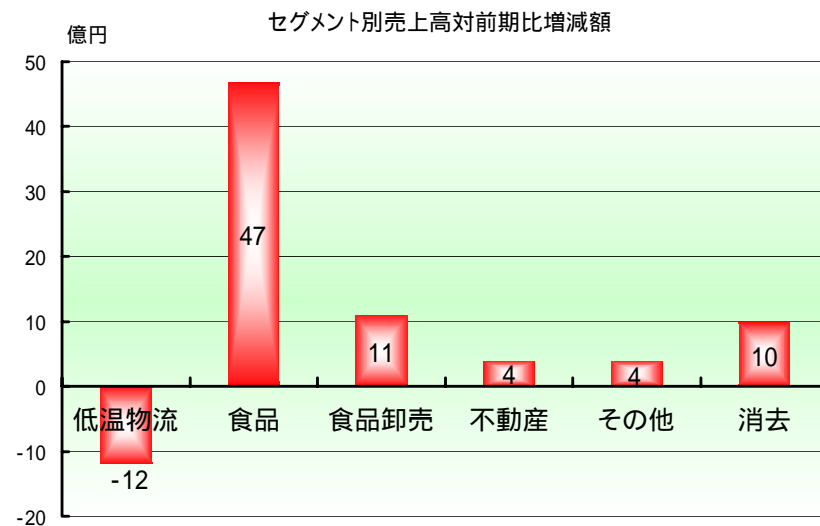
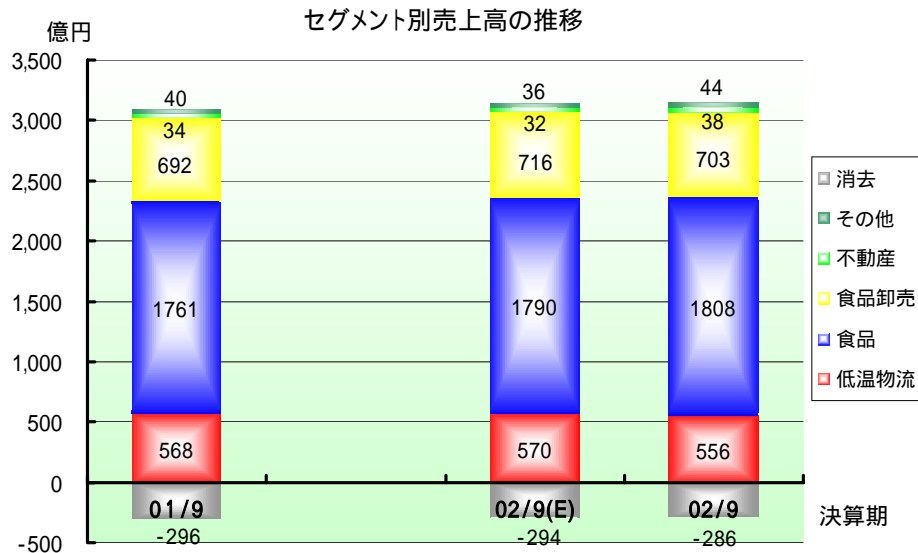
単位:金額 = 億円(未満切捨て)	01/9	02/9(E)	02/9	02/9対01/9比較	
				増減額	増減率
<b>売上高</b>	2,798	2,850	2,863	64	2.3%
<b>営業利益</b>	60	71	95	34	56.2%
<b>経常利益</b>	48	58	79	31	64.5%
<b>当期純利益</b>	28	28	28	0	1.4%

- 売上高** 02 / 9 (E)・・・2002年9月中間期見込・・・は5月10日に発表したもの  
低温物流が保管型の取扱数量減少により減収、食品は水産品と畜産品が好調で増収
- 営業利益**  
食品のうち加工食品は商流費・物流費の削減やアセロラ増収効果が貢献、冷凍野菜の取扱減も吸収して増益、水産品も好調な市況の下で取扱を伸ばし増益に寄与  
低温物流は流通型が好調だが保管型の入在庫減による収益性低下を補い切れず減益
- 経常利益**  
金融収支は4億円弱改善したが、持分法投資損益が2億円弱の減少、中国産ほうれん草などの棚卸資産廃棄損4億円もあり、営業外損益全体では01 / 9比3億円マイナス
- 当期純利益**  
投資有価証券売却損17億円が発生する一方、事業所閉鎖損失は01 / 9比4億円減少し、当期純利益は01 / 9並に



# 食品と食品卸売が低温物流の減収をカバー

## セグメント別売上高と対前期比増減の要因



### 1. 低温物流

素材型貨物の首都圏集中による地方倉庫の空洞化やBSEによるチルドビーフ搬入減少などで保管型が減収に、一方流通型は通過物量が順調に拡大し増収

### 2. 食品

加工食品は冷凍野菜の販売減が響き減収だが、水産品は市況の良好な魚種で取扱いを伸長させ、畜産品は国内チキンの好調もあり、全体で3%の増収

### 3. 食品卸売

取引先大手流通の店舗増や外食ルートでの拡大で2%増収

### 4. 不動産

川越の宅地分譲が順調に推移

### 5. その他

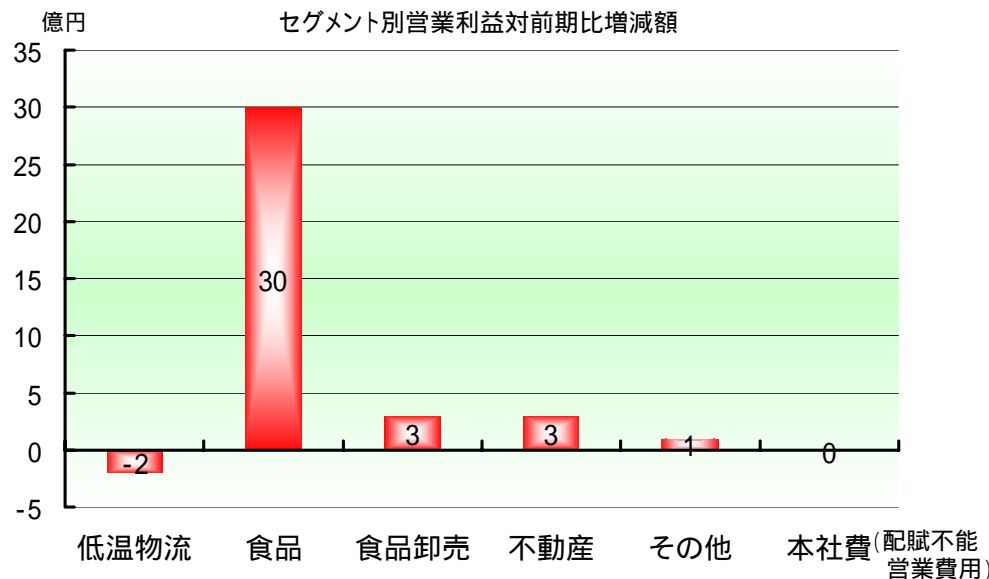
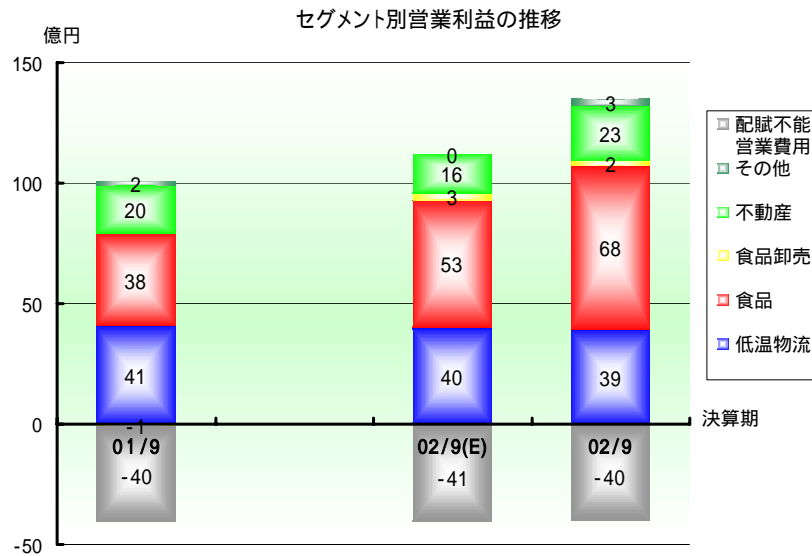
バイオサイエンスは化粧品原料のほか抗体医薬向け産業用培地が拡大

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



# コストダウンが進む加工食品が増益の最大要因に

## セグメント別営業利益と対前期比増減の要因



### 1. 低温物流

保管型が入庫量・在庫率ともに01/9を下回り減益に、輸配送も料金競争が厳しい、一方で流通型は採算が改善し通過物量も増加して増益となるが保管型を補いきれない

### 2. 食品

加工食品は製造コストや物流費の削減が進み、販売促進費の効率使用による採算改善が大きい、アセロラの増収効果もあり大幅増益、水産品もたこ・かきが好調のほかさけも市況が回復し増益

### 3. 食品卸売

物流費圧縮と不採算取引の見直しが進む

### 4. 不動産

宅地分譲が順調なほか土地賃貸でも権利金収入が発生

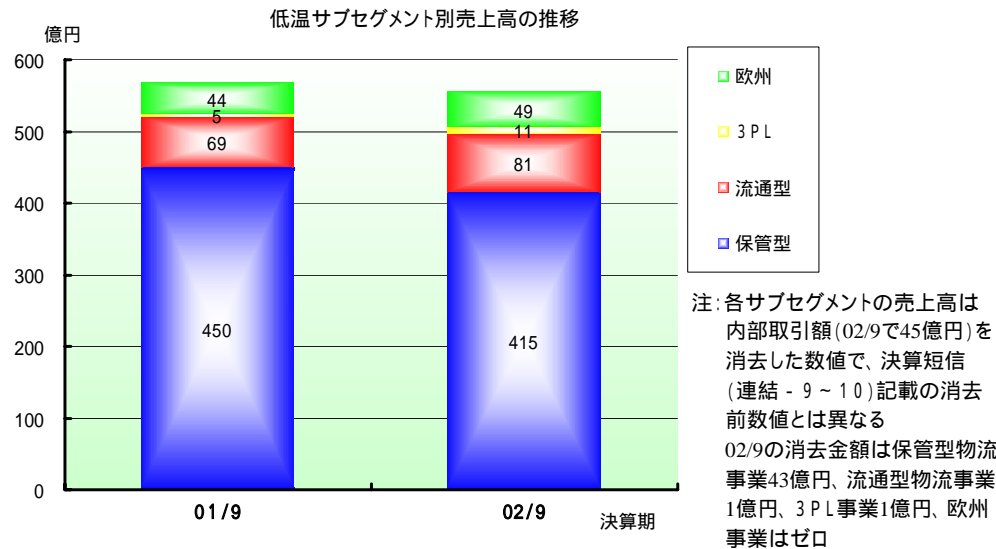
### 5. その他

バイオサイエンス事業は化粧品原料が引き続き好調のうえ産業用培地類も拡大



# 低温物流は保管型の減益を流通型が補う

## 低温物流事業の対前期比増減の要因



### 1. 保管型

BSEなどを背景とした輸入畜産物の搬入量減少や、在庫の大都市への集中による地方冷蔵倉庫の空洞化などで物量が減少、新規業務の収支安定化の遅れもあり減収減益  
保管賃単価は概ね横這いで推移

### 2. 流通型

採算の改善したイオングループ仙台センターが通期で貢献、新規拠点の稼動が下期になり初期費用もないため大きく増益に  
イオン向け以外の既存拠点も通過物量が増加して好調

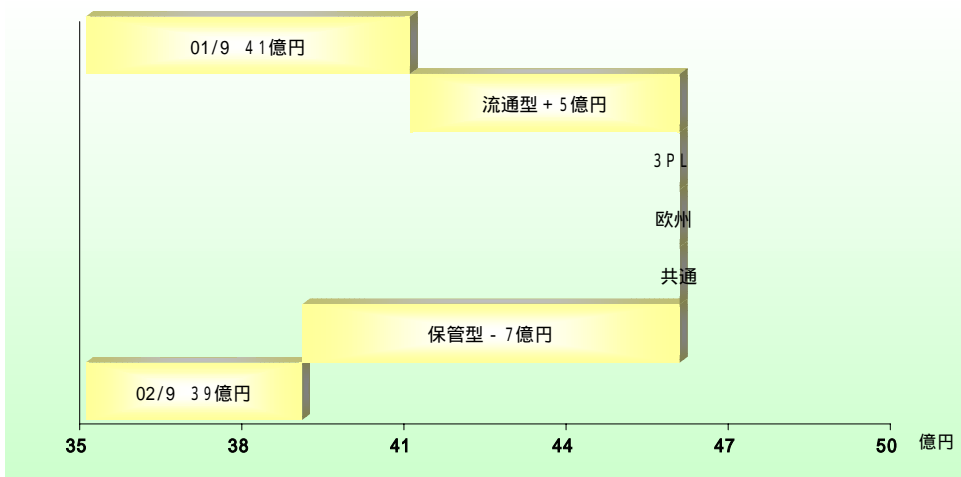
### 3. 3PL

中部地区におけるチルド洋菓子の共同配送など、新たな取り組みがスタート

### 4. 欧州

当初計画通り、冷蔵倉庫の新設による投資負担増もあり利益は前年並

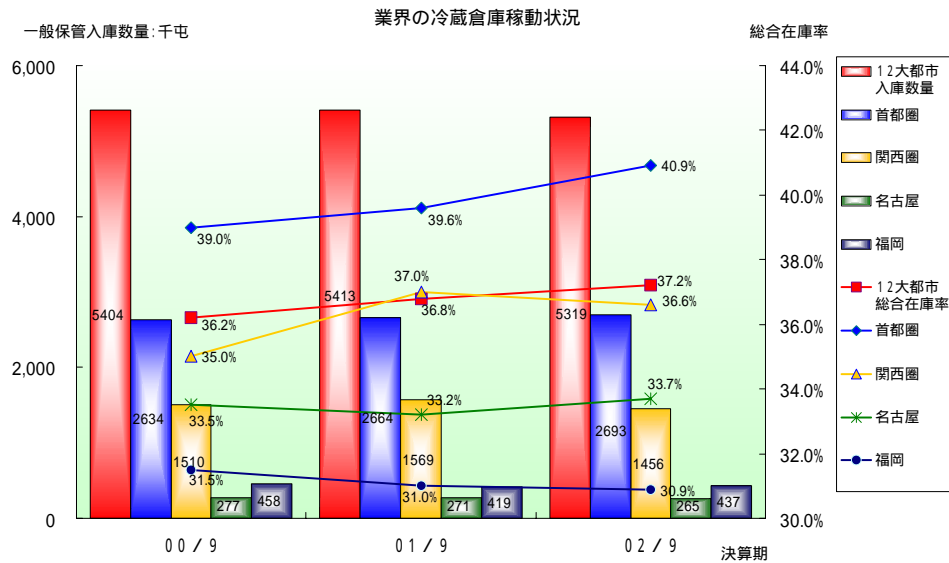
低温物流事業営業利益の対前期比増減要因



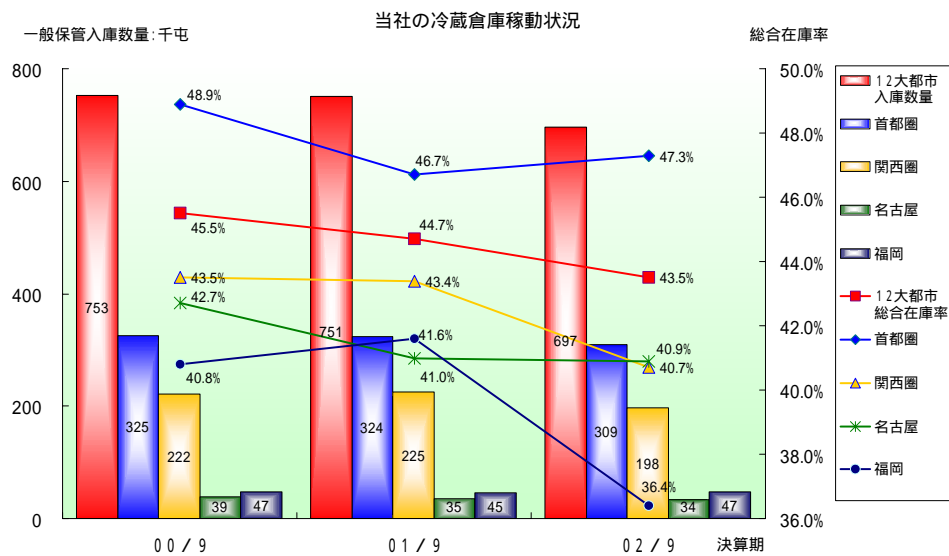


# 輸入畜産物の搬入量減少で冷蔵倉庫の稼働が低下

## 冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



### 1.業界の状況

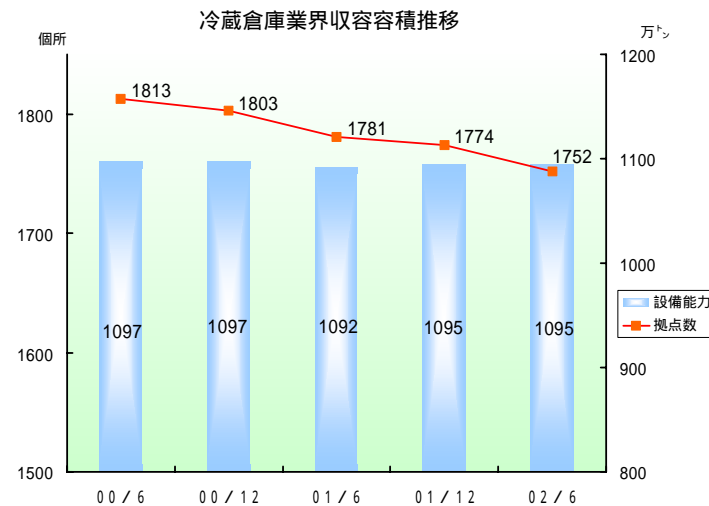
首都圏で総合在庫率が改善の一方関西圏や福岡では貨物搬入量が減少

### 2.当社の状況

輸入畜産物の搬入量減少などにより入庫量と在庫率が共に低下、特に関西圏は大口荷主撤退の後荷対策の遅れもあって影響大、福岡の在庫率5%低下のうち3%は一部保管貨物の近隣地区冷蔵倉庫への倉替えによるもの

### 3.業界の設備能力

拠点数が漸減傾向、設備能力は横ばい

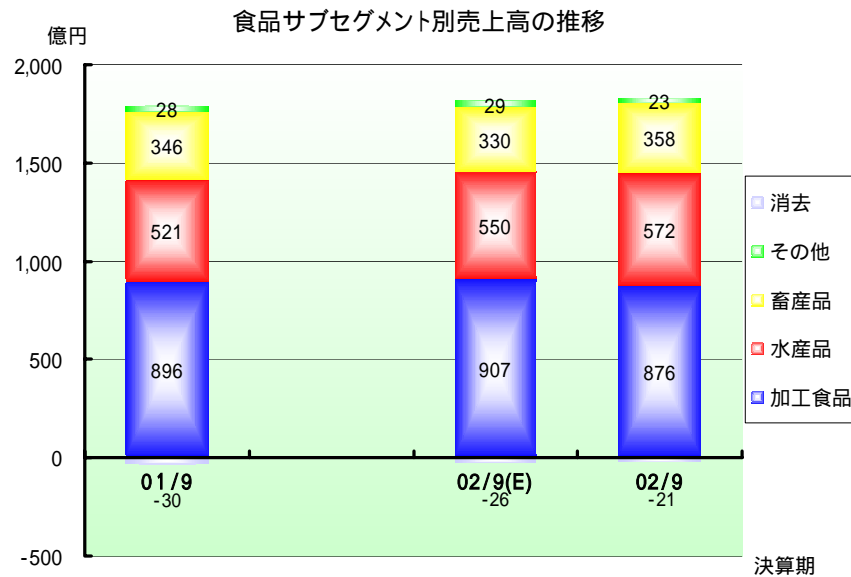


(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

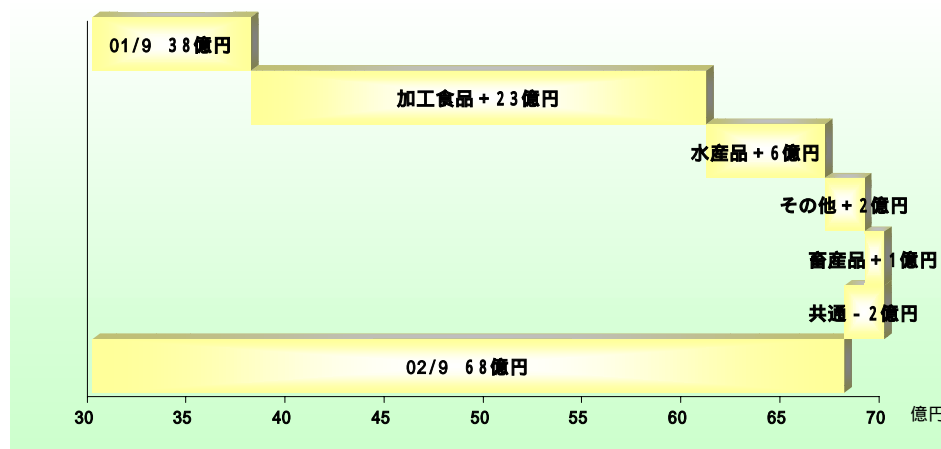


# 食品では水産品と畜産品が売上を伸ばす

## 食品事業の対前期比増減の要因



食品事業営業利益の対前期比増減要因



### 1.加工食品

販売促進費抑制から市販用が減収に、また残留農薬問題で販売自粛のほうれん草を始め中国産冷凍野菜全般が売上減少、一方で業務用は好調に推移

販売促進費の効率使用に加え、物流費の削減やテレビCMの抑制も採算改善につながる、製造コストの削減も順調に進行し大幅増益にアセロラはその健康価値がマスコミに取り上げられ、大きく売上を伸ばす

### 2.水産品

たこやかになどの主力商材で取扱を大きく伸ばす、さけも市況が回復、01/9は市況が軟調だったえびも安定した取扱で増収増益に

### 3.畜産品

01/9発生の子キン輸入停止など特殊要因がなく売上は3%増、国内チキンが需要増で好調、一方昨年来拡大していた輸入チキンは偽装事件の影響などで需要急減、市況悪化し不採算に、牛肉はBSEの影響で取扱を絞る

### 4.その他

「てんぐ」は米国テロ事件による観光客の減少により回復のテンポがやや遅れ



# 調理冷食はユーザーニーズを捉えた業務用が好調

## ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

### 1. 冷凍食品全般

01/9比4%の減収、調理冷食は市販用・業務用合わせ概ね前期並、残留農薬問題で中国産冷凍ほうれん草が6月以降販売自粛、中国産冷凍野菜全般が影響を受け調理冷食以外で売上減少

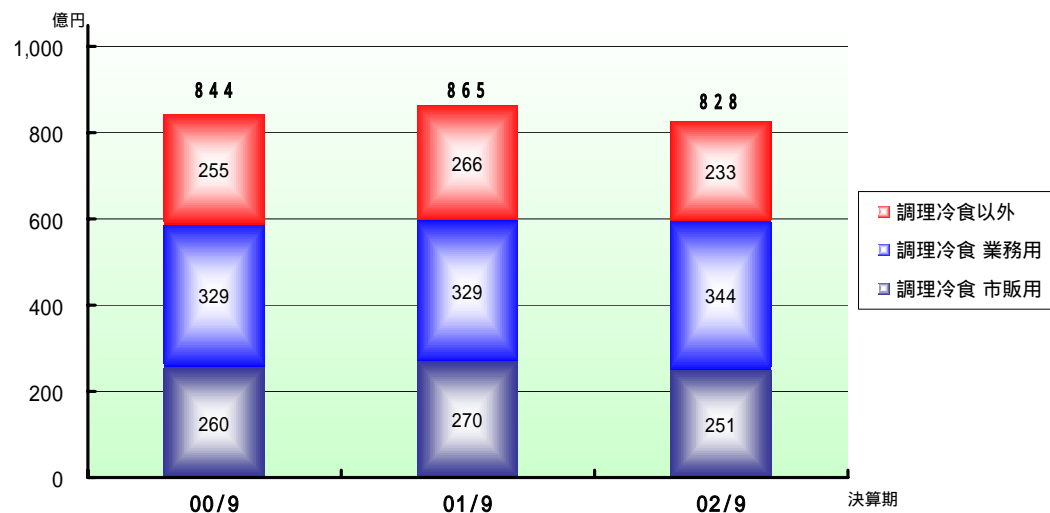
### 2. 調理冷食

市販用: 販売促進費の効率使用を進めたことで採算は改善したが、店頭での特売回数減が影響し01/9比7%減収、値引きなしでも売れる商品や売場の構築を目指し投入したプレミアム型商品「上等洋食」シリーズは順調に浸透し当初計画通りの売上に

業務用: 業態別ユーザーニーズを捉えた商品戦略が奏効し01/9比4%増と好調、惣菜向けの「衣がサクサク十勝コロッケ」「本和風鶏唐揚げ」などが売上増の原動力、学校給食向けもゼリーをはじめデザート類が大きく伸びた

カテゴリー別にはチキン加工品や中華惣菜が好調、業務用の伸長著しいコロッケも大きく伸びたが、特売絞り込みが影響した米飯や協和香料事件の影響を受けたグルタン類が不振に

冷凍食品売上高の推移







# 有利子負債03 / 3目標1,550億円は達成へ

## 02 / 9期連結バランスシートの変動要因

単位:億円(未満切り捨て)

科目	02/3	02/9	増減
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	1,278	1,329	50
固定資産	2,254	2,217	-37
資産の部合計	3,533	3,546	13
<b>(負債・資本の部)</b>			
流動負債	1,646	1,547	-99
固定負債	1,000	1,093	92
負債の部合計	2,647	2,640	-6
少数株主持分	10	9	-0
資本の部	876	896	19
(有利子負債)	1,674	1,660	-14
<b>科目</b>	<b>01/9</b>	<b>02/9</b>	<b>増減</b>
(設備投資額)	47	40	-6
(減価償却実施額)	67	63	-3

### 【主な要因】

売上債権が46億円、棚卸資産が7億円増加、いずれも売上が3月より9月前後に増加する季節要因によるもの

設備投資と減価償却費の差額による22億円減のほか、投資有価証券の売却により減少、一方その他有価証券が評価増

仕入債務27億円増加は季節要因によるもの、期中に普通社債200億円を償還し同額を発行、転換社債63億円は固定負債から流動負債に振り替え

季節要因による運転資金の増加により削減額は小幅、01 / 9比では117億円の減少、03 / 3の期末残高目標1,550億円は達成する見通し

02 / 9の設備投資の主なもの

天満橋ビル(大阪市)新設

欧州の物流センター増設…継続中

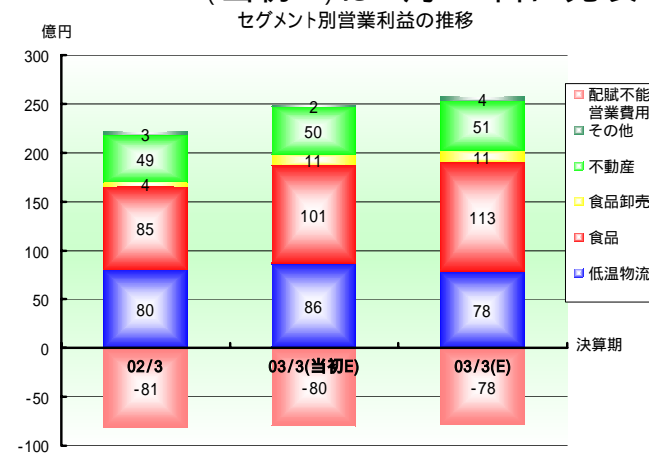
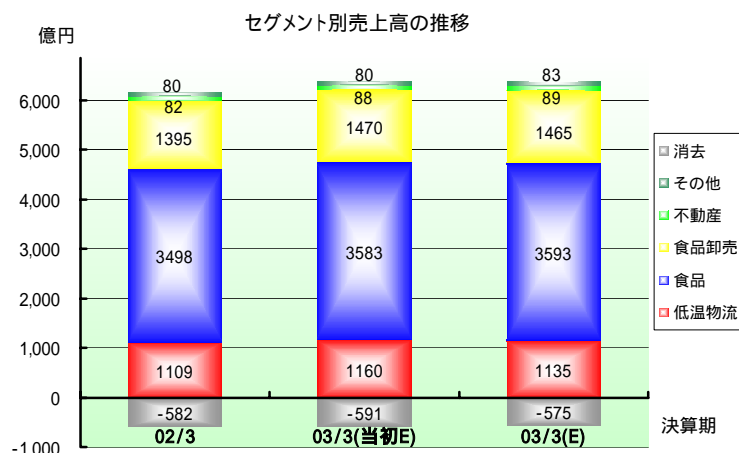


# 後半は利益を確保しつつ売上高を更に伸ばす

## 2003年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	02/3	03/3(当初E)	03/3(E)	03/3(E)対02/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,581	5,790	5,790	208	3.7%
営業利益	140	170	179	38	27.7%
経常利益	116	144	153	36	30.9%
当期純利益	40	72	60	19	47.7%

03/3(当初E)は5月10日に発表したもの  
セグメント別営業利益の推移



- 低温物流の保管型は大口貨物の集荷注力と作業コストの低減により採算悪化に歯止め、流通型はイオン向けセンター2ヶ所が稼働開始
- 加工食品は中間期に販売促進費の効率使用で採算を改善した市販用調理冷凍食品に下期は販売促進費を効果的に投入して売上回復を図る、加工食品全体の売上高は通期で01/3並を確保、水産物は引き続き取扱を伸ばす



## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従い、これら業績見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢  
および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- 偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。